

令和 8 年度 国立吉備青少年自然の家教育事業
バンブーキャンプ IN 吉備 2026
～竹で遊ぼう！秘密基地を作ろう！3泊4日の大冒険～

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

小学4年生から6年生までの子供たちが、自然の中で宿泊や様々な体験を通して心と体の成長を促すことを目的とし、異年齢の仲間と協力しながら課題に取り組む中で、コミュニケーション力や他者への思いやりを育むとともに、慣れない環境の中での挑戦を通して自己肯定感や非認知能力を養う。

2. 事業の概要

（1）期日

令和8年8月16日（日）～8月19日（水）3泊4日

（2）参加者

① 募集対象・人数

全日程に参加できる小学4・5・6年生

② 参加人数

11人

（3）企画・運営のポイント

- ① 参加者は最初に竹についての環境学習に臨み、その学びを基に竹林で実際に竹を伐採し、竹小屋や竹細工に加工するとともに、昼食時のそうめん流し用にも竹を活用した。自分たちが伐採し使用した竹はその後、キャンプファイヤーの燃料として使うといった一連の流れを通して、で竹を中心とした環境学習に結び付けることができるように活動プログラムを企画した。
- ② 竹についての環境学習では、身近にある竹が生活に便利なものに加工されていると同時に、竹害が及ぼす自然への影響を知ることができた。
- ③ 竹小屋の制作では、事前に試作品を用意しておくことで、参加者が作る際にイメージを持ちやすくした。
- ④ 竹小屋づくりに向けて、職員と法人ボランティアが事前に試作を重ね、小屋の大きさに適した長さの竹を事前に選定し、竹林内にて参加者が切る竹をマーキングしておくことでスムーズに竹伐採をすることができた。
- ⑤ 活動拠点場所の近くに竹小屋を作ったため、往復の移動に負担が少なかった。
- ⑥ 事業期間中、自炊活動の機会是一次だったが、その分竹を使った竹細工や竹小屋づくりに時間を割くことができ、時間内に全員が竹のランプと竹水鉄砲と竹弓矢を作ることができた。
- ⑦ しおりに自分の目標、班の目標を書き、毎日振り返りを行った。また、タブレットを使って振り返りに取り組んだことで、最終日の保護者への発表はスライドショーを用いて分かりやすく行うことができた。
- ⑧ ネッククーラーや塩分を含んだ飴などの熱中症対策品を配付するとともに、活動中、食後は休憩の時間を十分に設け、昼間の活動は時間を何度かに分けたり、場所を変更したりするなど、熱中症の予防に努めた。
- ⑨ 参加者に対するボランティアや社会実習生、職員といった大人の目が多かったことで、参加者が安心して活動に取り組むことができた。

3. 活動の内容等

(1) 日程

竹で遊ぼう！秘密基地を作ろう！3泊4日の大冒険！

日程	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
2026/8/16 1日目					受付	開会式	オリエンテーション 仲間づくり	昼食	環境学習	竹伐採・竹供給	ロープワーク	宿泊準備 テント設置	夕食	ICTの使い方 振り返り	入浴	就寝準備	
2026/8/17 2日目	就寝	洗面	清掃	朝食	竹小屋作り			昼食	竹小屋で過ごす (時間が余れば竹細工)			夕食	入浴	竹小屋で過ごす	ICT振り返り	就寝準備	
2026/8/18 3日目	就寝	洗面	清掃 準備	朝食	野外炊事 そうめん流し・竹筒ご飯				竹小屋の解体	竹水鉄砲	夕食	竹でキャンプ ファイヤー	入浴	ICT振り返り	就寝準備		
2026/8/19 4日目	就寝	洗面	清掃	朝食	テント 片付け	発表 準備	発表	閉会式									

(2) 活動の状況



【仲間づくり】



【テント泊】



【竹伐採】



【ロープワーク】



【竹小屋づくり】



【竹細工】



【野外炊事】



【夕食】



【振り返り】



【閉会式】

竹を切るとき軽く前におして後ろに引くときに切れると教えてもらった。竹は切ってもすぐに伸びてしまうし、お金も人手もかかるので大変。それに狭い場所だと機械を入れられないので人の手で切らなければいけません。明日は竹小屋を作るので竹をくくる紐の結び方を学びました。缶バッチも作った。



今日は、野外炊事をしました。野外炊事は、お米とそうめん流しをつくりました。私はお米をつくりました。お米は竹をまんなかで切って色んな、刃を持つ道具で何とかして切りました。できたご飯はとても美味しかったです。片付けもみんなと協力して終わらせました。夜には、キャンプファイヤーをしました。花火もしました。楽しかったです。



土台を少し上げて作ったのでむずかしかったから、がんばりました。



竹小屋をつくるのが難しかったけどがんばりました。



バンブーキャンプ

岡 笑里



3日目



野外炊事

今日は昨日教わった結び方で竹小屋を作りました。竹小屋を作る時、床の竹を半分にしておドリルで穴を開けました。その穴に糸を通して竹と竹をくっつけました。半分にするときには2人で協力して半分に割りました。



今日は、野外炊事をしました。野外炊事は、お米とそうめん流しをつくりました。私はお米をつくりました。お米は竹をまんなかで切って色んな、刃を持つ道具で何とかして切りました。できたご飯はとても美味しかったです。片付けもみんなと協力して終わらせました。夜には、キャンプファイヤーをしました。花火もしました。楽しかったです。



(3) 成果

- ① 伐採した竹を使った「竹小屋づくり」をメインの活動とし、準備段階としてロープワークを行った。学んだことを活用し、全ての班が竹小屋を完成させることができた。
- ② 竹小屋を解体した後の竹を活用して、ランプづくりと竹水鉄砲、弓矢の制作を行った。竹を自分たちで工夫して加工し、作ったランプはキャンプファイヤーの際に輪になるよう並べて置いた。
- ③ 所有している竹林を使用したことで、竹林に行くまでの時間は徒歩10分程度だった。そのため竹の運搬の作業も比較的負担なく行うことができた。
- ④ 自炊活動については、4日間を通して3日目の昼食のみ自炊とし、食事の時間については十分に確保することができた。入浴・振り返りの時間は初めこそ慌ただしかったが、班内で協力し合い、日を追うごとに流れが整い、スムーズに進行できるようになった。
- ⑤ タブレットを使用して、4日間の活動を自分なりにまとめることができ、閉会式前に保護者の前で発表した。参加者一人ずつが感じたことや考えたことをしっかり発表し、保護者にも成果として見せることができた。
- ⑥ 振り返りについては、しおりに書く時間とタブレットにまとめる時間を分けて行ったことで時間はかかったが、その分自分の言葉でまとめようとしたり、タブレットの操作スキルの個人差を参加者同士で教え合ったりしながら取り組むことができた。
- ⑦ SNSを活用し、活動の様子を保護者に随時共有することができた。
- ⑧ 広島国際大学の社会教育実習生にも協力いただき、より充実した事業となった。

(4) 今後の課題

- ① ボランティアの定期試験や就職活動と開催期間が重なっていたため、ボランティアの確保が難しかった。地元新聞社による記事掲載に加え、Webニュース、Instagramでの広報、岡山市内の小学校へのチラシ配布を行った。当初の予定では18人を参加定員として募集を始めたが、定員まで参加者が集めることができなかった。次回は実施時期を十分に検討し、参加者やボランティアが参加しやすいように調整していきたい。
- ② 暑さ対策を十分に行い、実施する内容についても時間に余裕を持たせて取り組んだ。アンケート結果からは、実施内容が少なく少し物足りないという意見があった。実施内容については、参加者の体力や当日の天候を踏まえて対応する必要があるため、安全面に配慮し、体調を崩す参加者がいないようさらなる対策を検討していきたい。

担当：企画指導専門職 平井 健